

<p>[科目名]</p> <p style="text-align: center;">ロシア語会話</p>	<p>[単位数]</p> <p>2単位</p>	<p>[科目区分]</p> <p>アカデミック・ コモンベーシックス</p>
<p>[担当者]</p> <p>トルストグーフ・A TOLSTOGUZOV ALEXANDER</p>	<p>[オフィス・アワー]</p> <p>時間： 場所：</p>	
<p>[科目の概要]</p> <p>本科目は、ロシア語を勉強しようとする学生のための中級の科目である。この科目の総合目的は、基礎的なロシア語能力の習得である。授業中に使うロシア語教科書「テレモーク」中級編の基本コンセプトとして、ロシア語検定試験の入門レベルと基礎レベル（ロシア文部省実施）を基準とした教科書である。</p> <p>このため、この教科書作成の最大の特徴は、新しいタイプの統合型教材である。具体的には、学習者の語彙と文法の知識を基にして4つの言語能力（聞く、読む、話す、書く）を獲得するように構成されている。</p> <p>この教科書で定めたロシア語の学習目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロシア語の「コミュニケーション活動を重視し、日常的な会話のバリエーションを増やす」こと 2. ロシア語会話を重点内容に位置付け、必要に応じて文法知識の理解を図ることである <p>ロシア語の文法は複雑であるが、この教科書は最小限の文法で乗り切っている。ロシア語表現をできあいの形で覚え、いくつものパターンを蓄えて、実用に備えている。</p> <p>教科書の内容と構成として次の4点を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各課とも「新出単語、聞く、読む、話す、書く」の構成である。 2. 1冊につき30課の構成とする。 3. 使用語彙は、1冊につき300語を目途とする。 4. 練習問題編を別冊で作成し、応用訓練の一助とする。 <p>この教科書では学生自身の積極的な授業参加を前提にしている。たとえば、授業では学生の応答を得た後に次の指導が展開される場面が随所にあり、授業と家庭学習が練習問題編によって直結していることもその一例である。</p> <p>授業の内容を面白くするために沢山の笑い話、小話とジョークを使う。</p> <p>また、学生が図書館の資料を使って独学できる。</p>		
<p>[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか]</p> <p>ロシア語の知識は幅広い範囲の仕事場（会社、国家機関、文化団体）で使用できる。英語と並びロシア語を話せるならキャリアのための可能性はより広がる。将来の自分の目的に合わせて勉強ができる。</p> <p>この段階では、できるだけ会話のロシア語を使用し、学生達がロシア語に自然に慣れ、次の段階のロシア語の勉強のために基礎をつくる。</p> <p>ロシア語の知識を習得すると青森に住んでいるロシア人、ロシアから来ているロシア人とのコミュニケーションをとることができる。希望があれば、国内での簡単なボランティア活動をするチャンスも与えられる。</p>		
<p>[科目の到達目標(最終目標・中間目標)]</p> <p>授業で得た知識で日常生活や文化を話題としたロシア語の日常会話ができる。そのため、授業中に黙ってもらうのではなく、恥ずかしがらないで沢山話してもらうようにする。そして、さほど難しくないロシア語の文章は辞書を用いて読めるようになる。</p> <p>春学期の期末試験では、学生達が半年で習った基礎文法と基本単語と会話のパターンをいかに習得し、いかに将来に使うことができるか確かめる。</p> <p>その他、授業中に勉強したロシアという異文化の国についての理解度を高めることを目標とする。</p>		
<p>[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 以前はたまにシラバス通り進むことができなかつたことがあつたが、これからはシラバスに書かれた内容通りに進めたいと思う。 2. 授業の効果を高めるために重要な所を繰り返し、強調し、練習させる。 		

<p>〔教科書〕</p> <p>ロシア語教科書「テレモーク」中級編、2008年。</p>	
<p>〔指定図書〕</p> <p>和露辞典 露和辞典</p>	
<p>〔参考書〕</p> <p>「ロシア語文法ハンドブック」、寺田吉孝、2004年</p>	
<p>〔前提科目〕</p> <p>ロシア語入門</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>授業態度、出席、期末テストを総合的に評価する。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 テストの評価の基準</p> <p>A : 80点以上 B : 80点未満70点以上 C : 70点未満60点以上 D : 60点未満50点以上 F : 50点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>学生達には授業に積極的に参加することを期待している。 そして、学生達は教科書の内容だけではなく、自分の関心に合う単語を学ぶことを期待している。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第1課 内 容: 空港の出迎え</p> <p>教科書・指定図書:「テレモーク」 p.3-7</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2課 内 容: バス車内で</p> <p>教科書・指定図書:「テレモーク」 p.8-12</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第3課 内 容: ハヤトの部屋で</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.13-16</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第4課 内 容: 授業はいつですか</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.17-20</p>

第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):第5課 内 容: 無事到着</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.21-28</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):第6課 内 容: あなたはどちらから</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.25-28</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):第7課 内 容: 南極大陸からやってくるのは誰</p> <p>教科書・指定図書:「テレモーク」 p.29-32</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):第8課 内 容: 食料品はどこで買えますか</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.33-36</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):第9課 内 容: ランチは軽食堂で</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」p.37-40</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):第10課 内 容: 何歳になったの</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」p. 41-44</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):第11課 内 容: ありえないよ</p> <p>教科書・指定図書:「テレモーク」 p.45-48</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):第12課 内 容: 勉強を終えてから、思い切り遊びなさい</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.49-52</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):第13課 内 容: 怖がらないで</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.53-57</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):第14課 内 容: 明日の計画はなんですか</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.58-61</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):第15課 内 容: ご注意ください、ドアが閉まります</p> <p>教科書・指定図書 :「テレモーク」 p.62-65</p>
試験	